

今、本堂の片隅に『愚光文庫』と書いて二〇〇冊ほど手に取りやすい文庫本と、川崎さんが段ボールの切れ端にその時々には仏法からいただいた思いを書いた法語が置いてあります。「興味ある方は差し上げます」と書いてあります。本四～五十冊と法語一～二枚は持ち帰ってくれた方々がおりました。先日も、たまたまお寺参りに来られた方が、『愚光文庫』を見て、「この川崎さんという方はどういう方なのですか」と聞かれたので、「お友達です。仏法が取り持ってくれた友達なので『法友』と言います」と答えさせていただきました。

合掌 南無阿弥陀仏

川崎さんとの出遇い

古谷善一

7年位前に成ると思いますが、茨城親鸞の会で初めて出会いました。その後何回か会い、「今度家の方に来れば」との事でした。私は数日後日立市の川崎さんの家に向かいました。

川崎さんは、人間の持つ分別心・執着心について4時間以上かけ説明をしてくれました。帰り際に「俺の処は鍵が掛けていないので何時に来ても良いからまた来なよ」と言ってくれました。

朝5時頃家に行ったこともあったな。昼にいっしょに妻が作った握り飯を食べた。あそうだ。鷺本さんが私の家に竹の皮を持って来てくれて、その竹の皮に包んだ握り飯を本当に旨いと言って何時も食べてくれたな。正月は「もち」を持っていき、2人で食べました。同じ釜の飯を食べる事が嬉しくなりました。月1回遇うのが楽しみでした。何時も6時ごろ到着して仏法聴聞、11時頃から食事をして12時頃川崎さんの家を出ました。

川崎さんとの1対1の聞法会で、ある日、「古谷さん、長生きすれば必ず不自由なる。けど、長生きしてください。期限付きの命ですが…」と言われました。

それから2年位過ぎた頃、「東京の了善寺という寺に百々海 真という住職がいる。百々海さんの時間のある時、行事のない時に訪ねて行け」と言われました。了善寺での法話会が数週間後にありましたので、足を向けました。如来回向です、すべてが自分の計らいにあらざです。自力無効です。了善寺様に身を運ぶ度、川崎さんの事を思い出します。

令和5年11月中ごろ、川崎さんに連絡をしました。「11月23日に行きますが、都合はどうですか」と聞きましたら、「11月23日は鰻を食べに行く。ご馳走するから、来て」と言われました。お店の名前は忘れましたが、鰻を御馳走になりました。旨かったな。本当に旨かった。今年になって、今度私をご馳走する番と思い、TELをしました。出てくれませんでした。令和5年11月23日が娑婆での2人での最後の食事になりました。

川崎さんより100時間以上にも及ぶ出遇い、法話、座談の時間を頂きました。私はつくばみらい市、川崎さんは日立市、車を飛ばせば2時間少しで到着します。何時でも会えると思っておりました。でも違った。私も含めて **期限付きの命**です。

たくさんの言葉を頂いた。何度も何度も聞いた言葉は、「聞いた事は掴むな。置いて行けよ。これだと掴んだものはみな死んだものである。何時も出発点に帰る。必ず身に付いて居